寺谷町長（左）から認定書を手渡され、誕生した森のガイドの第１期生ら＝24日、智頭町智頭のほのぼの「ひだまりホール」

森のガイド22人誕生

智頭で森林セラピー基地認定催し

キャッチフレーズも披露

智頭町が県内初の森林セラピー基地に認定されたのを記念して24日、同町智頭の町保健・医療・福祉総合センターほのぼの「ひだまりホール」で記念イベントがあり、基地認定書や森のガイド認定書の授与式、基調講演などを通じて森林セラピー基地の本格実施に向けて機運を高めた。

イベントは町森林セラピー推進協議会が主催。会長を務める寺谷誠一郎町長が、林業の現状を踏まえ、「森林セラピーに目を向けることで、森林という町の宝物が光輝き、再び林業がよみがえることになる」と決意を込めてあいさつした。

認証機関であるNPO法人森林セラピーソサエティによる基地認定書の授与に続き、1年間のセミナーを通じて養成してきた森のガイド第1期生22人に認定書が手渡された。

活動を盛り上げるために公募していたキャッチフレーズも発表。「鳥取砂丘を育（はぐ）む源流の森」と披露された。

基調講演は森林セラピーソサエティ事務局長の河野透氏が行い、森林セラピーがもたらす健康への効果や目的、地域活性化への手法などを解説。「基地の発展は、まず地元の人の交流と理解が重要」と強調した。予定していたトークセッションは変更し、平井伸治知事が講演。事業実施にエールを送った。

森林セラピー基地は全国で42カ所が認定。同町は来年度にグランドオープンを予定している。